

【会議録】

湯沢市若者や女性が輝くまちづくり推進協議会
 テーマ「公共施設の未来を考える」＜1回目＞

日 時	平成 30 年 7 月 13 日（金） 18:00～19:20				
場 所	湯沢市役所本庁舎 会議室 21・22				
委 員 出 席 者	会長 佐藤 理沙 副会長 奥山 和宣 副会長 本郷 詩津希 委員 Perera Aurea 三澤 隆 栗山 晃昇（途中退席） 小松 夏菜子 柴田 はるか 高橋 広子 （計 9 人）	座席表 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> 佐藤 理沙 栗山 晃昇 小松 夏菜子 柴田 はるか 高橋 広子 </td> <td style="width: 33%; text-align: center; vertical-align: middle;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 100px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 100px;"></div> </div> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> 奥山 和宣 本郷 詩津希 Perera Aurea 西村 祥子（通訳） 三澤 隆 </td> </tr> </table> 	佐藤 理沙 栗山 晃昇 小松 夏菜子 柴田 はるか 高橋 広子	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 100px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 100px;"></div> </div>	奥山 和宣 本郷 詩津希 Perera Aurea 西村 祥子（通訳） 三澤 隆
佐藤 理沙 栗山 晃昇 小松 夏菜子 柴田 はるか 高橋 広子	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 100px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 100px;"></div> </div>	奥山 和宣 本郷 詩津希 Perera Aurea 西村 祥子（通訳） 三澤 隆			
市出席者	企画課長、企画政策班長、担当 （計 4 人）				
説 明	○趣旨説明 ○現状説明（公共施設の現状、課題、今後の考え方） 資料：「あなたも考えよう！湯沢市の公共施設」、公共施設一覧、配置マップ 				

質疑応答、
意見交換



佐藤委員

かなりの公共施設があることに驚いた。自分は稲川の出身であるが、説明を聞くと知らない公共施設もたくさんあった。老朽化や人口減少という問題もあるので、統合できる施設は統合してもよいのではないかと思う反面、無くなると寂しいと思う施設もある。現存させるのであれば、施設の魅力付けが必要。ある施設のホームページに掲載されている写真は、数十年前の開業当時のものであるなど見づらく、それでは若者は魅力を感じないと思う。

奥山委員

率直に大変な問題だと感じている。やはり人口減少は止められないだろうし、限られた財源しかないのも十分承知している。分母である財源が増やせればそれに越したことはないが、現実的に民間との連携や譲渡する動きも検討していかなければいけないと思う。例えば、旧小野小学校の校舎を企業が使用しているように、企業に譲渡したり、学校給食センターが統合したので、使用しなくなった所は、6次産業化を目指し加工施設として活用したりするなども考えられる。加工施設ができて仕事が増えれば働く人も増えて、働く人が増えればお金も増えていくのではないか。

統合するに当たって、どこかで線引きが必要になってくると思うが、市で改修・廃止をして管轄しなくなった場合、その空地はどうなるだろうか。例えば、ある球場は市で管轄しなくなったなら放置され、草が伸びている。統合・廃止後の活用についてもきちんと議論したほうがいい。

市

施設はそれぞれ耐用年数があるが、最後まで使いきるのが基本方針である。利用するために距離が遠くなる方もいるなど、不便や痛みを伴わない複合化はありえないことなので、難しい問題であるが、市民の声を聴きながら大多数の方が納得してくれることを第一にして進めていきたい。

民間との連携について、実際にそういう話は増えてきている。役割を終えた施設も、耐用年数がまだまだある施設もたくさんある。役割を終えた施設は、行政で他の用途に使用できないかを模索し、用途がない場合はすぐに解体するのではなく、民間に譲渡するといったことを考えていきたい。今後そういった取組がますます増えてくると思う。

本郷委員	<p>必要性や有効性を考えた時に、例えば、ある地域に老朽化した施設や目的から外れた施設が集中している場合、そこを無くしてしまえばその地域の人たちは遠くまで行かないといけなくなるので、そういう不便性も考えなければいけないと感じた。</p> <p>私は旧横堀小学校出身だが、そこでは児童館と小学校が一緒になっていたのが小学生だったら小学生が利用できる施設を1つにまとめてみるとか、年齢層によって利用できる施設を考えてみるとかが必要と思う。</p>
Perera 委員	<p>民間と協力するのも複数の施設を統合するのも賛成。しかし、建物そのものに文化的な価値や財産的な価値があるものもあると思うので、そこも重要視してほしい。ここに来て短いけど、文化的な価値がある建物も知っているし、そういう施設も民間に委ねるか統合するか、もしくは財産として残すかという線引きをすることはとても大事なことだと思う。</p>
市	<p>5月から各地域で意見交換会を開催しているが、同じような意見があった。もちろん文化的な価値を考えることも必要であり、すぐ近くにも雄勝郡会議事堂記念館という文化的価値が高い施設があるし、雄勝地域にも旧院内小学校がある。国や県に文化財指定されている建物は、守らなければいけない施設であり、利用率が低いから必要でないとはならない。利用率や稼働率などの数値的要素以外も考える必要がある。しかし、それは市役所内で職員が検討するだけではなく、市民同士が話し合える場を作ることも市役所の役割だと思っている。文化的価値もその価値観は一人一人違うので、そこに落としどころを見つけ、どうバランスを保つかが重要であると思っている。</p>
西村さん (通訳)	<p>私も雄勝に在住しているので母校が廃校になったり、一方でその校舎を民間事業者が活用していたりするのを見ている。そこで疑問に思うことは、どうやってその方針が決まったのだろうかという事だった。民間に活用されているのはうれしいが、いつどうやって決まったのかわからない。活用される経緯や開業の時期などが地元には伝わっていないのではないかと感じた。</p>
市	<p>再編計画には、個別施設ごとに、施設の方向性とその時期を掲載する。それを決める過程においても、市で持っている施設情報は市民に提供しながら進めていきたいと考えている。市では計画を作成するときに市民の声を反映させて作ってきたし、これからも声を聞きながら作るという方針だが、特に再編計画は市民に身近な計画なので、市民の声の聞き方や、世代のバランスなどを大事にしていきたいと考えている。この会も含めた各種会議や市民討議会、市民アンケートなどをとおして、徹底して市民の声をお聞きすることにしている。議論の過程を透明にすることが重要であるので、ホームページの内容も充実させ、個々の公共施設の詳細なデータを公開するなど、市民同士での議論が深まる要素を作り、市民の皆様に興味を持ってもらいたいと思っている。</p>
三澤委員	<p>すべての施設を建替して維持するとなれば、財源が足りないということは確定している。それを賄うために借入などで借金を増やせば、将来の世代に負担をかけるということも確定している。やはり丁寧な説明はもちろん必要なことと感じているが、個人的には施設の数は減らさなければいけないことは確定的でないかと思う。</p> <p>赤字になってしまう施設でも市民が必要な施設はあると思う。まずは1つ1つ洗い出して、統合や複合化も必要だと思う。地域の施設は地域の方々にとって必要なものなので、地域の様々</p>

	<p>な年齢層の方が、地域ごとにその地域の施設の必要性を話し合ったほうがいい。</p> <p>いずれにしても厳しい財政状況であることを全市民にきちんと伝えることで現状を理解してもらうことが大切ではないか。民間との連携もどんどん進めた方がいい。公共施設は立地的に恵まれたところがあるので、それを使いたい民間の方々も多いはず。いろいろな案を出してもらえないのではないか。</p>
市	<p>これまで平均でかけてきた施設整備費が 16.7 億円、これからかかる平均の金額が約 30.3 億円、不足が約 13.6 億円で、率にすると約 45%である。湯沢市公共施設等総合管理計画においては、延床面積を 45%減らしていく目標としている。</p> <p>施設の収入と支出から赤字になっていることが判断できるが、これは重要なポイントである。公共施設以外にも商業施設など市民が活動できる場所はあるが、民間で採算が取れるものは民間でやっている。一方で、行政が運営しているものは採算だけを見て運営しているわけではないので、公共施設を考えるとときに採算面や公共性のバランスを考えて計画しなければいけない。</p> <p>地域のことは地域で決めるべきだという意見であるが、湯沢市には約 450 の施設がありそれぞれタイプが違う。例えば、文化会館のように 1 つないしは 2 つしかない施設がある一方で、地区センターやコミュニティセンターのように各地域にあるものもある。だから地域の実情を考えると、地域に必ずあったほうがいいものとそうでないものを分けて考えることが重要であり、地区センターなどは地域に住む方々で議論してもらいたいと思っている。</p>
高橋委員	<p>説明を聞いてすべてもっともなことと思った。湯沢生涯学習センターや湯沢勤労青少年ホームを毎週使用しているが、かなり老朽化が進んでいる。ヨガを教えているので各地域をまわっているが他の市町村の施設は綺麗で新しく感じる。湯沢生涯学習センターは、トイレを改修したので、今後も長く使用するのだろうと思うのだが、天井が朽ちていたり畳の部屋は傷んでいたりと感じる。老朽化率は、湯沢勤労青少年ホームが 98%、湯沢生涯学習センター 90%ということで、データを見て初めてその施設の老朽化具合が分かった。市民の皆様にも納得していただくには、このようなデータを見ていただくことが重要であり、納得しやすい。また、新たな手法としての複合化はいいと思う。</p>
市	<p>湯沢生涯学習センターの現在の状況はおっしゃるとおりであり、公共施設である以上「安全性」は必須である。費用の面よりも安全であることが重要である。残すものはきちんと修繕して残し、廃止する場合であっても、施設で行っている活動は他の施設に移転するなどして、維持していかなければならない。</p>
柴田委員	<p>1,200 人に対して行ったアンケートの結果から公共施設の見直しが必要と考えている人が 9 割いたとのことだが、様々な人から様々な視点の意見を聞くことが大事だと思う。とても難しい問題だと思うので、普段の学校生活では考えることがないが、高校生でも利用できる公共施設も多くあると思うので、若いうちから考えるべきなのではないかと感じた。</p>
小松委員	<p>施設のハコと機能について考えることはとても大事だと思うが、施設それぞれの付加価値があることも忘れてはならないことだと思う。公共施設ではないが、障害者施設と郵便局が共同でイルミネーションを行っていて、小学生がその手伝いに行くことで交流できる機会がある。地域の人たちもそのイルミネーションを楽しみにしている。施設には地域住民からみた付加価値があると思う。</p>

また、例えば電子図書館という考え方を考える際には、高校生は勉強場所として図書館を使う人も多いため、図書館は本を貸し出す場所だけではないということと、それをどこかでカバーする必要があるのではないかと思う。

商店街が寂しい状態になっているが、必ずしも店が入る必要はない。例えば勉強する場所など、いろいろな使い方があっていいのではないか。

市

電子図書館について、「1つの建物に1つの機能だけあるのではない」という事はもっともなことであり、その役割を分解して考えないといけない。公共施設の再編計画を作る中でも、1つの施設の中に複数の機能があることを前提に、機能ごとに分解して考える必要がある。また、イルミネーションの話に関連して、施設の存続に関する議論だけではなく、施設で行う内容を充実するなど、今後の管理・運営についても議論している。例えば、施設の維持管理はしているが、講習会やイベント、スポーツ教室など運営の部分ではもの足りないということもある。先進的な事例だと、体育館をスポーツメーカーに委託する場合、施設維持だけでなくメーカーのノウハウを使って、運営面でもサポートしながら運営できるということもあるので、施設管理と活用の仕方を一緒に考えていく必要がある。

市民の皆様には市民討議会や意見交換の場で参加していただき、意見をどんどん出してほしい。この会議でも活発な意見を期待している。本年は計画の中間案を作成するので、皆様からの意見も参考にさせていただきたいと思っている。

(19:20 終了)